

瑞雲

直方鉄工青年会

第28号

「第3回『まつりくらじ』 盛大に催される」

我々の郷土であるこの直鞍地区の良さを若い人や、子供さん達に再認識してもらおうと、郷土の人達で作る“まつりくらじ”の祭典も今年で3回目を迎えた。

7月30日、午後4時の花火を合図に、直方市河川敷公園で開催された。この日は晴天に恵まれ、日曜日だった事もあり、6時頃には浴衣姿の親子連れが目立ち、“まつりくらじ”のちょうちんに灯が入る頃には涼みがてらの人達で河川敷公園は一ぱいにうずまった。

会場には芸能広場、まつり広場、子供広場と三大広場が設けられ、芸能広場では各種芸能保存会の団体による郷土芸能の催し物が披露されるうちに直方山笠が到着、いやが上にも祭り気分が盛り上がってきた。

隣りのまつり広場に目をやると、子供相撲大会の土俵を囲んで、直方青年団、みどり会、直方J.C、鉄工青年会の屋台による縁日、夜市又は自慢の出し物がずらりと並び、目をかがやかせる子供達で大にぎわいだった。

好きなだけらく書きの出来るポンコツ車が置いてある子供広場は、早くからワンパクちびっ子達に占領されており、飛び箱を使つての健康コーナー、ジャンケンで勝ち抜くジャンケン大会、あるいは大人顔負けの指師も飛び出す緑台将棋コーナー、チビっ子ステージではチビっ子歌合戦と盛り多くさんの催し物に子供達の歓声が夜遅くまで響きわたった。

＜鉄工青年会コーナーは大盛況＞

我が鉄工青年会は今回が初参加と言う事でありましたが、鉄工青年会は子供相撲、うなぎ釣りコーナー、スイカ割り、バナナのたたき売りコーナーと、4カ所も受持つ事になり、だいたいがこういうお祭りさわぎ

が大好きという連中ばかりの集まりなので、すぐにそろいのハッピーを着込んで大張切り。

先ずは子供相撲から見ていきましょう。

① 時間を大切に (時間を守る事は、その人が信用を得る最大の^{カチ}値だ)

② 15周年式典を成功させよう

＝ 子供相撲コーナー ＝

子供相撲大会は、鉄工青年会の手で、汗を出し、腰を痛めながらの土俵作りから始まり、協力のかいあって、それはすばらしい？出来ばえ。

さて、まつり広場の中央に作られた土俵上では、行司（前半半田さん、後半高之浦さん）検査役、賞品係によって取り仕切られ、呼び出し吉田一さんにより始まり、凄まじい熱戦の火蓋が切って落されました。「八卦良い、残った、残った！」小学生までを対象として、下は幼児幼稚園から、上は六年生まで。幼稚園の部では、相撲をしているというより、ダンスをしているようで周囲を笑わせておりました。上級に行くにしたがい、体力も優り熱戦が繰り広げられました。

また、女の子自からの出場には驚きました。その戦いぶりは、男に勝るとも劣らない凄じいものがあります。ああ、末恐ろしい。

こうしてまつりくらじ相撲大会も夜が更けるまで、周囲の歓声の中で取り進んでいき、けが人もなく無事終ることが出来ました。

＝ウナギ釣りコーナー＝

隣りのウナギ釣りコーナーは川原君をはじめ、広報委員会の連中がウナギの釣り竿作りに大忙し。その後では伊藤清治君がいつもやっておられるのか？手つきもあざやかにウナギを裂き、高之浦実行委員長は七輪にタレを用意し、お客を匂いで釣ろうとウナギのカバ焼を始めるしまつ。



最初の予想ではウナギが暴れて糸がすぐに切れるのではないかと心配しましたが、なんと開店と同時にアレヨ、アレヨという間に釣り上げられ、ウナギがあまり早く無くなるように30分おきと釣り時間を制

限する程の大盛況。なにしろ、4人フル回転で釣糸に針をつけるのですが間に合わず、子供達は「オイチャン、オイチャン、はよ釣らせちゃんない」と若いボク

らをつかまえておらびまわるし、大のおとなまでが百円玉2枚をしっかりとにぎって、「早く釣らせろ」とそのやかましいこと、やかましいこと。手伝いの福山会計委員はウナギが宙に舞い上がる毎に採算があうのだろうか心配顔でした。例のいい匂いがたちこめる中、お陰でここでも9時をまたずに一匹残らず釣り上げられて、早々と店仕舞に取りかかりました。

しかし、子供達がウナギの入ったビニール袋を喜びいさんで持ち帰っていくのを見ると、こちらもつい疲れも吹っ飛んで微笑んでしまいました。

＝バナナたたき売りコーナー＝

バナナのたたき売りコーナーはどんな風かとのぞいて見ると、これが読んで字のごとく、まったくのたたき売り。玄人まさおの桐木君の名調子、それに彼が美人客に弱いのでバナナは飛ぶ様に売れ、あまりの調子の良さによって、ついにはお客さんから飛び入りも出て、バナナのたたき売りコーナーは黒山の様な人がかり、たちまち売切れ。

スイカ割りコーナーでは南君、内藤副会長が大ハッスルで子供達の押すな押すなの大盛況で、ここでもあつというまにスイカは売切れ。



各担当の鉄工青年会の皆さんご苦労様でした。また来年もこの意気で素晴らしい“まつりくらじ”を開催しようではありませんか。

企業対抗ボウリング大会開催される。

6月13日PM6時より、鴨生田パークレーンにて直方鉄工青年会厚生委員会主催で、企業対抗ボウリング大会が行なわれた。

今年は1チーム3名で女性6名を含む21チームの編成で多数の参加企業を得て、盛大に開催されましたレーンの抽選後、早速投球練習、小生、ピンがないとどういわけかストライクコースをどんどん通過してこれは好得点は必至と期待したもののイザ、ピンがセットされるとボールはピンを嫌うように溝に一直線、——ミジメ——それはさておき、さすが皆さん各企業を代表されるだけの腕自慢、ストライクの続出で、白熱したゲームが展開され、それでも和気あいあいの内に終えましたが、後日腰が痛くなった人もいたとか？

成績結果は以下の通りです。(敬称略)(3ゲーム計)

優勝 浅田鉄工所(A)チーム
宮本(敏) 1,467点
宮本(義)
安永

準優勝 石橋製作所(A)チーム
山本 1,334点
吉村
今畑

第3位 九州鑄鉄管チーム
塩塚 1,333点
梅林
山口

ハイスコアア賞

男子 山口(九州鑄鉄管チーム) (184-193-190)点

女子 出口(立石精機Aチーム) (146-118-169)点

ハイゲーム賞

男子 白石(立石精機Aチーム) 222点

女子 出口(立石精機Aチーム) 169点

BB賞

高野浦鉄工所Bチーム

7月の暑さを吹っ飛ばす体力テスト。

「さあ、今年も又体力テストの時期がやってきましたね。皆さんお腹の肉が出てきてイヤデスネ。ドンドン成績が落ちてきて結果をみるのがコワイデスネ。でも皆さん、よくガンバリマシタネ」

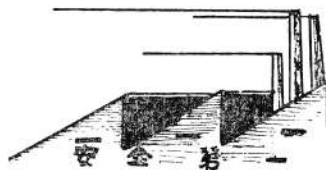
7月15日、厚生委員会主催により、恒例の体力テストが直方体育館に於いて催されました。

開始時間の午後6時30分には12名と少なかった会員も、半ば過ぎる頃には17名となり、全員連日の暑さも吹っ飛ばす意気込みで、握力テスト、ジクザクドリブル、垂直飛びとハッスルしました。反覆横飛びの折には、あまりに一生懸命にやっているので、タイム係が時間を見間違えていつまでたってもストップがかからず、全員ズッコケる場面もあり、大爆笑。最後の急歩には皆汗をびっしょりかいて、久し振りに清々しい気分を味わいました。

しかし、諸兄のバイタリティーには全く感心しました。この力を明日の直方鉄工業会に発揮したいものです。

皆さん何をやろうとするにも体力が一番です。こんな折に自分の体力を知っておいては？。来年はより一層多くの、全員の参加を期待します。

(尚、体力テストの成績表は9月例会に各自に配布されるそうですので、乞う御期待を！)



「各役員から一言」



「事務局長の役割」

村井 武久

事務局長制度が発足して2年目を迎えるわけですがまだ新しい制度だけに仲々思うように職務を遂行できません。初代事務局長だった半田さんもきっと御苦労なされた事と思います。

会則には「事務局長は会長及副会長を補佐し、事務局並びに財務を統轄する。又対内外的連絡事務を司する」となっていますが、現在のところ毎月1回の役員会の議事進行と会員間の慶弔事の連絡が主な仕事です。一時期慶弔事が続き慶弔局長と呼名を変えたらと役員で冗談を云い合ったものです。

現在のところは他の委員会の、分掌業務がはっきりしていますが、この中には事務局として取扱うべきものもあり逐次話し合いの上移行すべきだと思います。それから今までは役員会の内容を会員にお知らせしなかったのですが、今回からは議事録としてお知らせしたいと思います。あと2、3年もすれば事務局としての職務も確立すると思いますが、この1年間はその基礎固めに努力したいと思っています。



「会計からの報告」

会計 福山 盛樹

前期会費も1会員を除いては皆様の御協力により、7月迄に完納しました。4月の総会で私は、皆様に少々きつい事を言った事と思いますが、毎年会計をされる方から会費の納入が大変ルーズで困ると言う事を耳にします。だからと言って、ただ手をこまねいていたのでは駄目だと思い、今後会計を受持たれる会員の方の為思い切った手を打った次第です。

又、私も努力するつもりで居ります。会費が今だに未納の1会員は、毎年会費の納入がルーズで会計泣かせの会員です。私としましてはこの場で名前を挙げて書くつもりでしたが、それでは余りにも本人が傷つくのでやめました。会員の方々は、会社或いは工場の経

理の人に頼り過ぎてはいませんか？

この瑞雲を読んで、自分の事だと思ったら会計だけでなく青年会全体にも迷惑を掛けているのだから、改めて欲しいと思います。又、何事に於いても青年会に入った以上、会員同志お互いに迷惑を掛けない様にしたいものだと思います。

(後記8月21日現在で全会員の会費を徴集しました)

尚、後期の会費及び基金の振込み用紙は10月1日に郵送する予定です。

遅くとも10月末迄には福岡銀行直方南支店直方鉄工青年会 福山盛樹 宛に振込んで頂きます様皆様の御協力を御願ひ致します。

「社員能力を生ず」

高野 浦 篤

「させてみる」は任せてみるということなんだ。任せるにはどうするか。まず社員の能力を正確に算定せねばならない。そしてプラスアルファの仕事をいをつける。「八」の能力のある者に対しては「十一」の仕事をつける。「十一」の能力のあるものには「十五」の仕事をつける。正確な能力の算定という事が前提条件である。ここで、もし「五」の能力しかないものに「十一」の仕事をつけたら「どうしてあの社長は俺の事ばかりいじめるか」となる。「十五」の能力のあるものに「八」の仕事しかいにつけなかったら「なんだあの社長人のことをバカにして」。

この正確な能力の算定とプラスアルファの仕事をつけるということが、つまりは、社員教育ということではないかと私は思う。そしてほめると同時に、ほめてやると同事に、うまく叱るという事でしょう。ほめるよりもむしろ上手に叱るということのほうがむづかしく、私は必要ではないかと思う。

編 | 集 後 | 記

今回は青年会行事を編集した第28号一・一 瑞雲をお届けします。8月に発行予定でしたが1カ月遅れてしまい記事に時期を逸した所のある事をお詫び申し上げます。

瑞雲は会員皆様の会報です。青年会に対する希望、意見、各企業のPR等の投稿を希望します。

発行所 直方市殿町直方鉄工協同組合内
直方鉄工青年会 TEL②3241
発行日 昭和53年9月15日
号数 第28号
編集者 広報委員会(長) 細田 章
印刷 大同精版印刷機 TEL②0878